

## 『青春の1ページ』

### ガネフォの思い出

2023年4月14日 東京・銀座イルポネンティエーノにて  
参加メンバー 内田啓一、古川康之、村上（本郷）順三

#### 日本水球チームの編成とメンバー

——水球チームの結成について教えていただけますか？

村上 ガネフォ参加の話は団長の頭山立國様から慶應義塾大学の水球部だった井形敦さんに話が来て、そこからゴンさん（山本健さん）に行き、そして58クラブに来たんです。

「58クラブ」とは関東大学水球一部リーグで戦った選手達で、1958年3月に卒業した方々が結成した社会人水球チームです。私たちも大学卒業後、引き続き水球がやりたくて58クラブに加入しました。58クラブは、当時トップレベルの社会人水球チームで、58クラブからオリンピック選手が何人も選ばれています。また、1961年には全日本選手権水球競技大会で準優勝もしています。

ガネフォ選手集めの中心は菅久さんと内田さんです。中央大と日大が中心となって、選手集めは極秘じゃないけど、知ってる連中にだけ話を回していましたね。私の場合はガネフォの説明会に行ったら、菅久さんが「本郷、行くぞ。お前世話役やってくれ」なんて言われたから、それで参加を決めて、世話役もやることになったのでした。

古川 私はただ、菅久さんから本当に一本の電話で「お前、来い」って。中学、高校、大学と一緒にしたからそんなもんですよね。ただそのとき電話では、詳しい説明は何もしてくれなくて、「分かりました」って言ってから自分で新聞読んだり、いろいろガネフォのこと調べたりして、うわぁと思いましたね。真っ先に頭に浮かんだ事は、果たして会社が許してくれるかという事でしたね。

村上 菅久さんは中央大学のキャプテンだったよね。

古川 菅久さんはキャプテンじゃないです。野澤さんがキャプテン。だけど、野澤さんはおとなし目の性格で、菅久さんはあんな感じで活発で頭の切れる人だったから。それで野澤さんは村川さんと会社が一緒でしょ。当時野澤さんは転勤で東京を離れていたからね。それでガネフォの時は声を掛けられなくて…。野澤さんは、いつもどっしり構えていて口数は少ない人柄でしたが、締める時は、しっかり締めるキャプテンでしたね。

村上 そうだったんですか。野澤さん、「東京にいたら参加してただろう」って言ってましたね。

—— 幻のメンバーがいらっしゃるのですね。最終的にガネフォに参加した水球チームは12名ですが、もう少し候補者がいたということでしょうか。

村上 候補はもう少し居ましたね。特に慶應の人たちは、最終的には参加できなくて本当に残念でした。

内田 慶應は結局、選手を出せなかったよね。そもそもガネフォの話は慶應の井形さんからきたもんね。

古川 慶應の水球でキーパーだった井形さん。彼は、初めはガネフォに参加するって言ってたけど、最後は会社に止められたんだよね。会社から許可が出なくて参加できなくなったんです。

### 周囲の反応

—— みなさんがガネフォに参加するにあたって周りからの反応は何かありましたか？

内田 そういえば、誰か後輩が話に来たよ。OB 会から行ってこいって言われたんだらうな。とにかく OB に行ってこいって言われて来てるわけ。けど彼もね「内田さん、すみません、何も言いませんから酒でも飲みましょう」ってね。ガネフォのことは一言もしゃべんないし。藤本だったかな。藤本も「OB に（説得するように）言われてきましたけど、俺らも行きたいぐらいです」なんて言ってね。一緒に酒飲んで終わり。だからそれ以外、日大の場合は何も言われなかった。ダメとは言わなかったよ。

古川 水球の各大学の監督は、みんな応援してくれてたよね。私個人の場合は、もし外部や先輩から何か言われても全部菅久さんが対応されましたので心配はありませんでした。多分大学からもほとんど反対はなかったと思いました。

村上 そうだね。村瀬さんは私にプレッシャーは何もかけなかったね。ただ「水連は行くなと言ってるよ」とだけ言ってくれました。

古川 中大の金子監督、日大の鷺田監督、成城大の村瀬監督は仲も良かったし、表立っては言えないけれど、我々のことを、心の中で一番応援しておられたと思ってました。

## ガネフォに参加した気持ち

—— ガネフォという国際競技大会に出場するっていう経験はどうでしたか。

村上 私は対戦相手を見て身体が大きいなと思った。外国人は大きくなって。まして私が試合でマークについたのはインドネシアで一番でっかい選手でしたから。アルジェリアでもアルゼンチンでも大きいなと思いました。これが第一印象です。

古川 国際競技大会に出場するの初めてだったからね。私も身体がでかいなって思いましたよ。ゲームで対戦するまでは、正直自分のプレーが相手に通じるか心配で不安でしたが、いざ戦ってみたら思っていたより相手に通じたので自信を持てた事を覚えてますね。

村上 ただガネフォに参加した時、われわれはだれも自分たちのことを日本代表とは思ってませんよ。日本代表なんて、とてもじゃない。われわれの上にはオリンピックの日本代表選手がいるんだから、その次のレベル。でも、向こうに行ったら日本代表として扱われましたけどね。ガネフォには

結局、オリンピックの日本代表から外れた人が行ってるんです。

内田 日本代表だって思うこともいけない。われわれはガネフォに日本体育協会や日本オリンピック委員会、日本水泳連盟に選出されて参加したわけではないからね。あくまでも個人的にジャカルタに行ったんだから。個人的に参加するって声明まで出したからね。日本代表じゃない。「東京クラブ」チームとして行ってくるってね。

## インドネシアでは大歓迎

—— ガネフォに参加して印象に残っていることを教えていただけますか？

古川 空港での歓迎がすごかったですね。降りたところでたくさんの方が出迎えてくれました。あれが日本に参加してもらいたかったというインドネシアの証なのかな。われわれ、びっくりしましたね。とにかく歓迎してくれましたから。ただ、私は初めての国際競技大会参加だったから、こんなもんかなとも思っていたんです。それが後からガネフォのことを勉強して、なるほどと思いました（注 1）。

村上 向こうの歓迎はすごかったです。大歓迎でしたね、本当に着いたところで花束渡されたり、首にレイを掛けられたりしましたからね。

内田 在インドネシア日本大使館が 3 回ぐらいパーティーを開いてくれたんだよね。「日本から選手が来なきゃ、どうしようもなかった」って言ってね。当時の在インドネシア日本大使の古内さんなんか喜んでたもんね。

3 回も大使館に招待してくれましたよ。3 回だよ。普通だったら、一回もやってくれないんですよ。

村上 そうそう。3 回ぐらいやってくれましたね、パーティーをね。

古川 大使館でのパーティーも空港での歓迎と一緒に、こういうもんだと思ってたの。それが後になって、いかに大変なことだったかっていうことを知りましたね。私は、古内大使の喜んでおられた姿が一番印象に残りますね。

## ジャカルタ滞在中のこと

—— ジャカルタでの生活で印象に残ってることはありますか？

古川 選手村に入って朝のことですが、コーランの祈りで起こされたことですかね。でっかい音でやるんだよね。あれにはびっくりしました。文化の違いというんでしょうけど、拡声器を使ってやってるわけ、わあっと何か祈りを。

内田 しかし暑かったね。あの頃、選手村に冷房なんかないですから。扇風機もなくて窓開けて寝なきゃいけない。選手村は 1 年前にアジア大会で使った場所で、われわれはアジア大会の後の利用だったからまだよかったのよ。アジア大会の時は、もっとひどかったみたい。

村上 街中を見てると、川で洗濯したりね。自動車は高級そうな人だけが使っている印象で、一般の人が運転する車はあんまり走ってなかった

ですね。主要道路は舗装されてたかな。だけど脇道へそれると舗装されてなくて土ですよ。第一印象は、貧困な国だなと思ったことかな。それでも暖かいから生活できるんだろうね。

## 封印された過去、ガネフォ

—— ガネフォに参加して以降、皆さんはガネフォのことをどう考えていたのでしょうか？

古川 私自身でいうと、ガネフォのことは封印してました。考えてみたら、ガネフォに行ったことでアマチュア資格はく奪ってという結果になりましたから。だから、これは人に話す話じゃない。人に聞かれても、ほとんど自分からは説明したことないです。それに私の場合は、ガネフォから帰ってきた時、年齢も 20 代後半に差し掛かり、結婚を考えなきゃいかんし、仕事もあるしで、一人前にならなきゃという気持ちでいっぱいになっていました。ガネフォのことはほとんど頭から外れていました。親にもそんなに細かい話はしてませんね。両親は広島にいて離れて暮らしてたから。ただちょっと行ってくるぐらいの話しかしてません。

いろいろガネフォの事を勉強して、今は、ガネフォに参加した事を大変誇りに思っております。「ガネフォ 1963 への想い」で書いた通りです。アマチュア資格剥奪、水泳連盟からの除名等、当時は私の心の傷でしたが、それをバネにして懸命に生きた事が自分の人生のよりどころになっております。

その意味においても、私にとってガネフォは人生の宝物です。

村上 ガネフォ会が本格的に集まるようになったのは 50 周年に合わせ

て開いたガネフォ会以降ですね。それまでは房野がスペインから戻って来るときには集まるけれども、その他では集まらなかったね。あと菅久さんが六本木で店を持った頃から、ちょこちょこ集まったりはしてましたけど。正直言って、10年、20年はみんな黙ってたということです。

ただ私の場合は結婚するときに、彼女にガネフォの写真を渡したら全部の写真をアルバムに整理してくれて、そのおかげもあって家族や親戚は私がガネフォに出場したことを知ってるけれど、他人にはあえて言いませんでした。振り返ってみると、あのときの雰囲気として、ガネフォから帰ってきたらこのことは忘れちゃおうという気持ちだったかもしれません。だけど30年、40年して、ガネフォの仲間に会いたいと思う気持ちが強くなってきましたね。その他の人には、こっちからガネフォのことはしゃべらなかったです。だけど、50周年あたりからは逆にPRするようになったかな。

聞き手：富田幸祐

## 注 1：【古川追記】

後年、自分なりにインドネシアの歴史を勉強して分かった事ですが、インドネシアは350年間オランダの植民地だったんですね。1942年日本軍の落下傘部隊が攻め込み2ヶ月足らずでオランダ軍を全面降伏させて350年も続いたオランダの占領支配を全土から一掃したんですね。インドネシアの民衆は感動、歓喜したそうです。なぜなら、現地には昔からの予言で「わが民族が危機に瀕する時、空から白馬の天使が舞い降りて助けてくれる」という神話が語り継がれていた為です。そして日本軍に全面協力しました。1945年、敗戦で日本軍が引き上げた後、また、オランダ軍が攻め込んで来たんですね。しかし、約4年半の戦争でインドネシア軍が勝利し、1949年インドネシアは独立国家になりました。



あの空港での歓迎、そしてバスで移動中の、沿道を埋めた数十万人の国民の声援は途切れる事無く、万難を排しガネフォに参加してくれた日本チームへの感謝のみならず、日本軍がインドネシアの独立の礎を築き助けてくれた事を国民は良く承知していて日本国に対する感謝の想いの表れと思いました。あの伝説の白馬の天使と重なっていたのかもしれないね。

あの日から数十年経過し遅ればせながらその事を理解した時、私にあの日の情景が蘇り、あの声援は、インドネシア国民の心からの叫びだった様に思えて胸が熱くなりました。そして歴史的瞬間に立ち会えた事を誇りに思いました。現在もインドネシアは世界で一番の親日国です。きっとあの白馬の天使の伝説と共にインドネシア独立の事が語り継がれているのでしょう。